

非核平和の集い

～平和 命の大切さを願って～



雄信校区
亀岡登喜恵さんの発表

この催しに関わった一人として当日をふりかえり、改めて平和の尊さについて考えてみました。

まず、お話を聞かれた方の感想の一部をあげてみます。「体験されたことをお話しただけ、私たちの知らないことを教えていただきまし

この方の感想から、体験談だからこそ熱く胸に受け止めていただきたい様子が伝わってきました。

そこで、感想にも述べておられるように私も、命の大切さについて考えました。平和であるからお互いに命が守られているのではないのでしょうか。



砂川校区
清水信治さんの進行

地球上に人類（ヒト）が現れたのが三十万年前といわれています。それ以来、私たちの命は想像もできない彼

方から繋がりが現在の命があることに気づきました。

この命が無残にも太平洋戦争により断ち切られました。戦争は命を奪う卑怯な行為です。

私たちは、この悲惨な歴史に学び、平和を維持していくこと―命を大切にすること―に力を注ぎ、平和への確かな行動をこれからも進めていきたいものです。自分を守ることは、みんなを守ることに繋がります。

砂川校区 清水 真治
(戦争体験記進行役)

きずな

第2号
2012年4月

<発行>
泉南市人権啓発推進協議会



映画「大地の詩」を見て

人を裁く、導くのは難しいです。自分の家族があつての生活なのに、家族を犠牲にしてまで人を指導していくことは…。でも誰かがやらなければいけないものわかっているのに、いつも人権の映画を見るたびに人生の勉強課題が心に残りま

樽井校区 下村 克子

シネマフォーラム映画「大地の詩」満員御礼!!



校区の集い



猿回し猿舞座は本仕込み

一丘校区 岡本 晃

十月二十七日、「東西、東く西」のかけ声が響き渡り、大道芸に食い入るように注目する子どもたち。主役の登場の前に会場になった小学校の体育館には、小学校、幼稚園の子どもたち、地域の福祉施設の仲間や、親子連れの家族でいっぱいになり、期待に胸をふくらませていました。



猿舞座 (村崎耕平さん&夏水くん)

お猿さん登場、名前は「なつちゃん」こと夏水くん、

口上を述べる猿舞座の若頭、その後ろで体育館の床に貼っているテープが気になり、はがすのに夢中のなつちゃん、これも子どもたちには大うけでした。

「なつちゃん、頼むよ、お願いだから頑張って」手を引かれても足はダラリと脱力、やる気ナシ！大受けて。

「なつちゃん、今度は頼むよ、お願いだから頑張って」子どもたちも注目、大成功「拍手」。最後は、若頭と手

浅草雑芸団 上島敏昭さん



を握りグルグル回るお猿さん、厄災が去ることを祈願して、無病息災・家内安全・商売繁盛を祈念して。これがホントの猿回し。なつちゃん、若頭に安心して身を任せていました。

猿舞座は猿を叩いて芸を仕込むのではなく、猿と仲良くなつて信頼関係を結んだ上で仕込んでいく本仕込みの伝統を引き継ぐ日本に3組しかない猿回しなんだそうです。

我々人間の繋がりが子育てと一緒。

座長の村崎修二さんの伝えたいことは、人間と猿、教育と文化がいかに大事か。そういつたことをみなさん自身で見つめ直してほしいと思いをこめて、また会えるようにと「またね」と言つて、和やかに公演が終了しました。

猿回し公演は各校区の集いで開催されました。

ひととき

2012年度 おもな行事予定

- 6/3 (日)
憲法週間&男女共同参画週間
「市民の集い」
- 8/19 (日) …予定
非核平和の集い
- 12/2 (日) …予定
人権週間「市民の集い」

その他、フィールドワーク、人間関係づくり講座、夏休み親子体験講座、小学校での校区の集いなど、人権を楽しく学べる行事を予定しています。

昨年の三月に起きた東日本大震災のあと、絆が文字としても言葉としてもよく使われていて、昨年の漢字にも選ばれている。ところが、この絆という漢字が常用漢字にはないそうである。先日新聞に掲載されていた天野祐吉さんのコラム欄を読んで初めて知った。日ごろの勉強不足を恥じいるばかりであるが、たとえ絆という漢字がなくても、お互い「きずな」があればよいではないか。何よりもお互いを思いやる心を持って日々を送っていれば、つながりができて、それが絶ちがたいつながりになる、それが「きずな」だと思っている。そしてみんなが平等で、明るく幸せに過ごせる社会が一日も早く訪れることを祈るばかりである。(小栗 通生)



人権週間「市民の集い」なまえをかいた 吉田一子86歳 ～字はいのち 生きる力～



1月27日(日)、文化ホールにおいて、人権週間「市民の集い」を開催しました。

今回の「市民の集い」では、普段何気なく読み書きしている文字について、取り上げました。

絵本『ひらがなについき』に出会ったとき、ほんわかとした暖かな気持ちになったり、クスッと笑えたり、怒りの気持ちがおみ上げてきたり：すつと絵本の中に自分の気持ちが入っていきました。

この文章を書いた吉田さんに会いたい、みんなにも出会ってほしいという気持ちから今回の企画が誕生しました。

思っていた以上に、出会いはひろがり、出会った人たちはそれぞれ、自分の生活であったり、生き方と重ね、いろいろ感じたことを感想として言ってくれました。

絵本『ひらがなについき』が

教えてくれたこと

絵本『ひらがなについき』に出会い、さまざまな理由で文字の読み書きができず困っている方が、今の日本にもまだまだいらっしゃるといふ現実を知りました。わたしたちの読み聞かせでこの絵本と出会った児童・生徒も「ほんまか」「なぜ？」という大きな疑問と、文字を読み書きできるのが当たり前でないことに気づきました。

「市民の集い」が終わった後、そんなみんなの取り組みを吉田さんは大変喜んでくれました。

また、出演した人、参加した人、企画した人、『ひらがなについき』にかかわったすべての人々が、生きる力、元気になるパワーをもたらしたような気がします。

次に、みなさんの出会いを紹介します。



「市民の集い」が終わってからも、その心動く原動力になっていることを知り驚かされた。「文字は生きる力」まさにそのとおりです。たとえ読み書きができなくても、その人が温かく受け入れられる社会であって欲しいと思います。そして、私たちは今まで以上に「文字」を大切に読んでいきたいと思えます。気づきの機会をちょうだいし、ありがとうございます。

吉田一子さん『ひらがなについき』 出会えてよかった



図書館では、人権週間に、 特設展示をしていただきました



この新聞を読んでいただいたことをきっかけに、一度『ひらがなについき』を読んでいただけたらうれしいです。絵本は人権推進課と図書館にあります。

〈事務局〉



「ひらがなについき」を読んで

大阪の方言で書いてあったので、そのまま読み聞かせた。方言がおもしろいのか、子どもたちはクスクス笑っていた。読み進むにつれて少しずつクスクス笑いがなくなり真剣に聞き入っていた。読み終えたあと、数人の子どもに感想を聞いてみると、「字が読まれへんかってかわいそうだった」「らくがきが悲しかった」「漢字が読まれへんかったから、ラーメンを食べられへんかったのかわいそうやった」など子どもたちから感想をもらった。来年4月にはみんな小学校に行ってお勉強をしっかりやって、ひらがなや漢字を覚えましょうねとしめくった。 <浜保育所 職員>

朗読ボランティア
根っこの会

